

## I. 次世代の定義の明確化

本協議会における「次世代医療ICT基盤」という言葉を本資料内では、下記のように定義する。  
次世代医療ICT基盤とは、世界最先端のインテリジェンスシステムの開発実装を普及すること。  
よって、次世代医療ICT基盤には、下記二つの側面がある。

- a. 次世代の医療ICT技術へ展開していくための基盤構築
- b. 次世代の医療ICT技術の開発

## II. 臨床現場のデジタル化における標準化の定義の明確化

本協議会で頻用されるデジタル化の標準化という言葉の本資料内では、下記のように定義する。

- a. 既存のデジタルデータがあらゆる医療関連システムと「相互運用できる」ための標準化  
注1.) 相互運用のためのデータの標準化は2016年中までに完了
- b. 次世代医療ICT技術や高度な臨床研究等に利活用できるデータの標準化  
全データが解析できる「質の高い定義化された時系列」データであること  
注2.) 時系列データとはログデータではない。

## III. グローバル視点での健康・医療戦略としての次世代医療ICT基盤

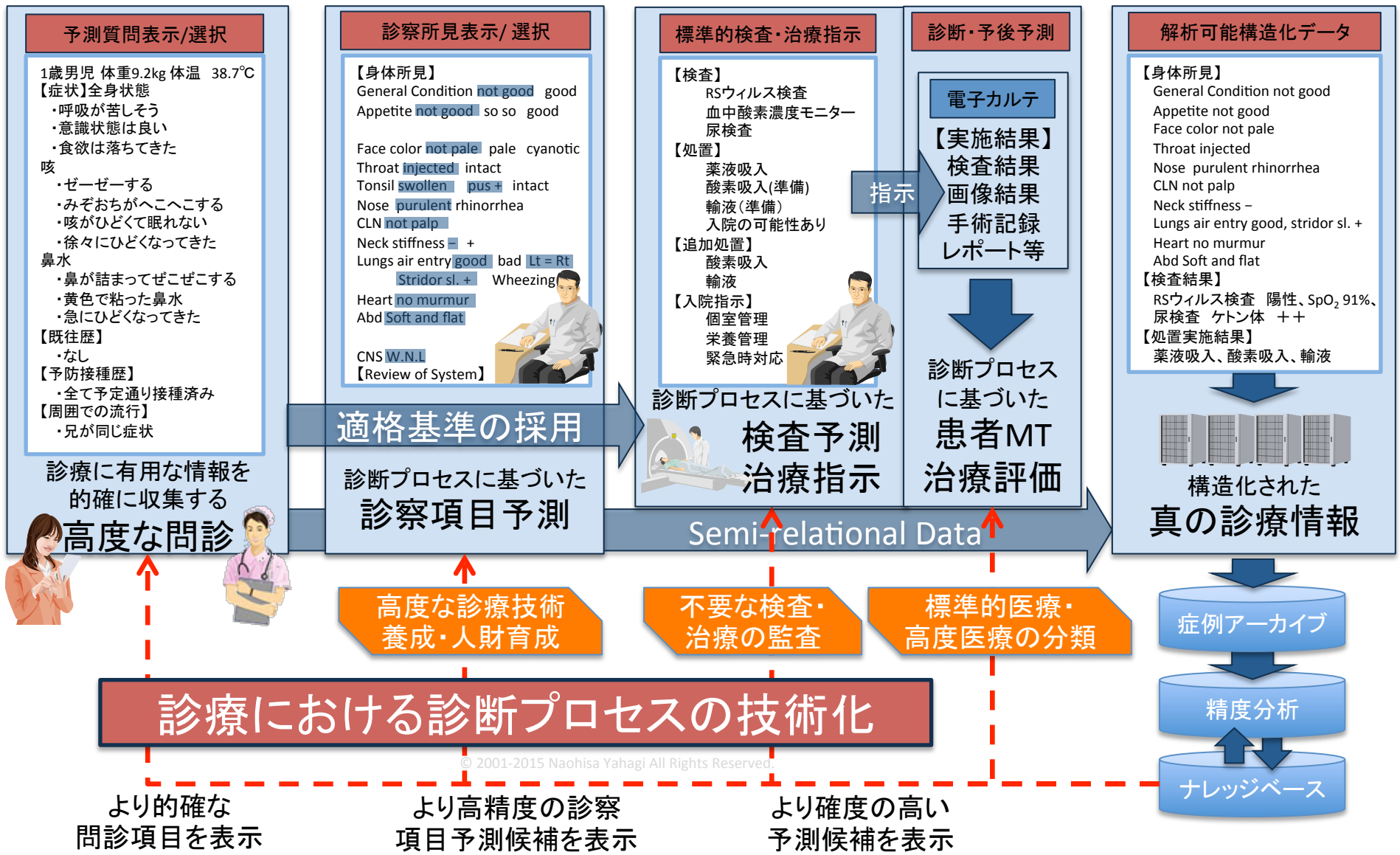
安価で高水準の医療提供環境 (=「日本式医療」) を次世代医療ICT基盤として世界へ展開する。  
下記をパッケージ化し、医療現場のあらゆるシステムが接続統合され、高効率で安全な医療提供環境を輸出。

- a. 医療を提供するインフラとしてのプラットフォーム: Medical Operating System
- b. 高い質と安全を高効率に提供するインテリジェンスシステム: Clinical Intelligence System
- c. 高度な臨床研究と創薬に要求される高品質な臨床データを格納する環境: Valued Database

## IV. 健康・医療戦略室の機能

上記I～IIIを推進し実現するにあたり、健康・医療戦略室と強固に連携し、情報を高度に分析し解釈しシステムデザインができるチーム(シンクタンク)としてMedical System Design と Clinical Data Management & Analysisを設置する必要がある。

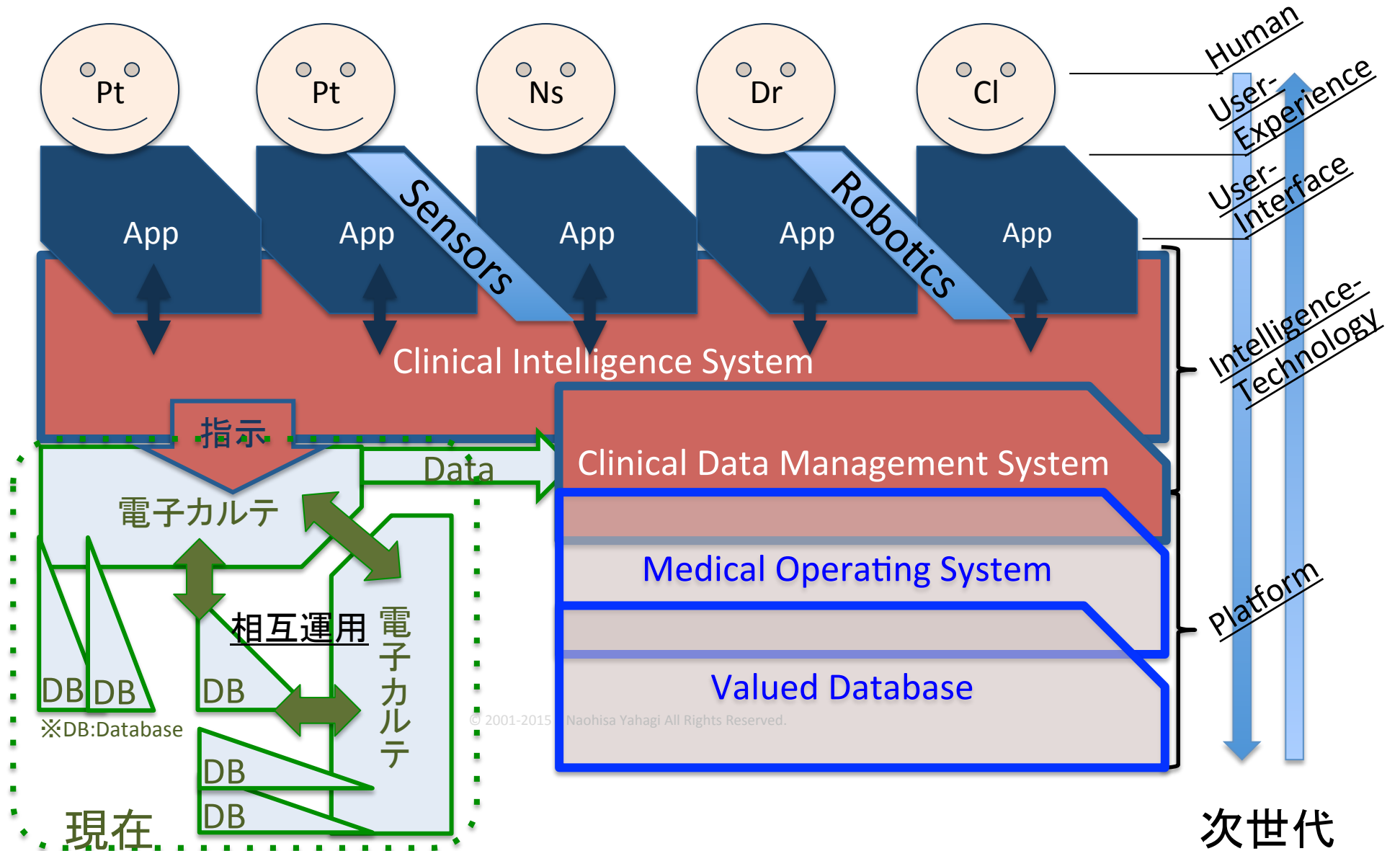
# 次世代診療支援システムによる診療ナビゲーション 1



© 2001-2015 Naohisa Yahagi All Rights Reserved.

# 次世代医療ICT基盤設計

- Grand Design and Architecture -



# 日本式医療の世界展開

患者：いつでもどこでも低コストでアクセス  
医師：的確な状態・病態把握と適切な治療

診療技術（診断・治療プロセス）のパッケージ化

医療インフラの最適化とコストの最小化

高い水準の診療の自動化と効率化

## 医療のスマートグリッドの実現

- 最高水準の治療とハイエンドな医療機器
- スタンダードな治療と高度な診療技術
- 高い診療技術を持つ人財の育成

## 医療シンクタンクの設置

- 情報の質：価値ある情報を収集
- 情報の量：圧倒的な情報量
- made in Japanを世界に

# 次世代医療ICT実現体制図

- オールジャパンで臨む診療支援システム開発・実装 -

